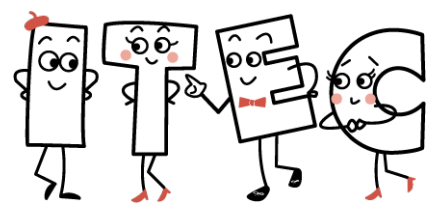


高度IT人材育成サービス

教材のご紹介





アイテック教育事業本部のご紹介	4
高度IT人材育成サービスとは	6
PMP®試験対策、ビジネスアナリシス	7
PMP®試験とは / 書籍	8
通信教育	9
BA(ビジネスアナリシス)とは / 書籍	12
通信教育	13
システム開発上流工程	15
要求分析・要件定義とは	16
通信教育	17
アジャイルとは	18
セミナー	19
通信教育	20
セキュリティ資格対策	23
PCI DSSとは	24
通信教育	25
セキュリティエンジニア養成講座とは	26
セミナー	27
お申し込み・お問合せ / 公式SNS	28
会社概要	29

IT人材の育成を通じて社会の発展に貢献する

アイテックはこれからの社会を担うIT人材の育成を通じて社会の発展に貢献します。

1983年（昭和58年）に、国内の民間事業者として初めて、情報処理技術者向けの国家試験「情報処理技術者試験」のための教育サービスを開始しました。以来、この分野でのトップランナーとして、試験対策通信講座の提供、テキストの出版を事業の核としつつ、お客様のご要望にお応えするために技術知識、マネジメント、ヒューマンスキルへと教育分野を拡大し、IT人材育成をトータルにサポートする専門事業者として発展してまいりました。

1983年以来、35年以上にわたり、IT人材育成の専門事業者として、延べ法人約8,000団体、90万人の皆様にご利用いただいております。

アイテックの教育実績

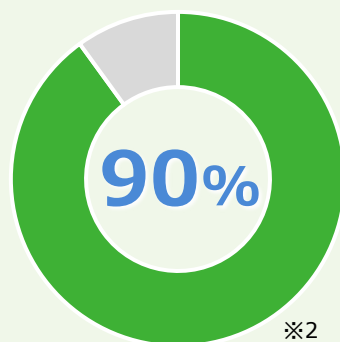
IT人材育成が
35年以上のノウハウ

幅広い教育分野に
講師150名以上で対応

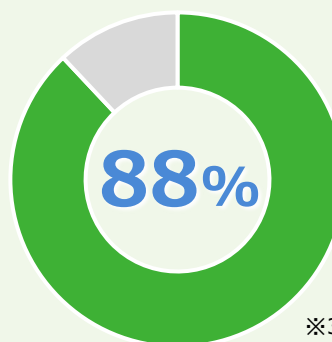
20,000問以上の
演習問題を保有

セミナー受講生のアンケート結果※1

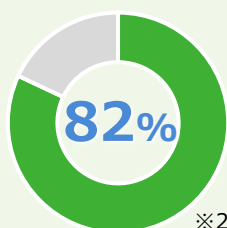
セミナー満足度



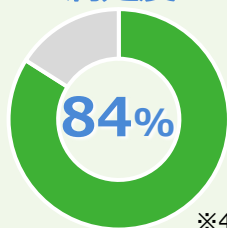
セミナー理解度



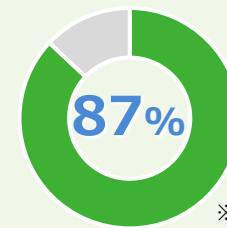
質問への対応 満足度



セミナー難易度 満足度



講師の満足度



※1 2017年4月～2018年3月実施の新入社員向けセミナー当社書式でのアンケートより集計

※2 「大変満足・満足」回答の割合 ※3 受講前よりも理解度が高くなった方の割合 ※4 「ちょうど良い、難しい」回答の割合

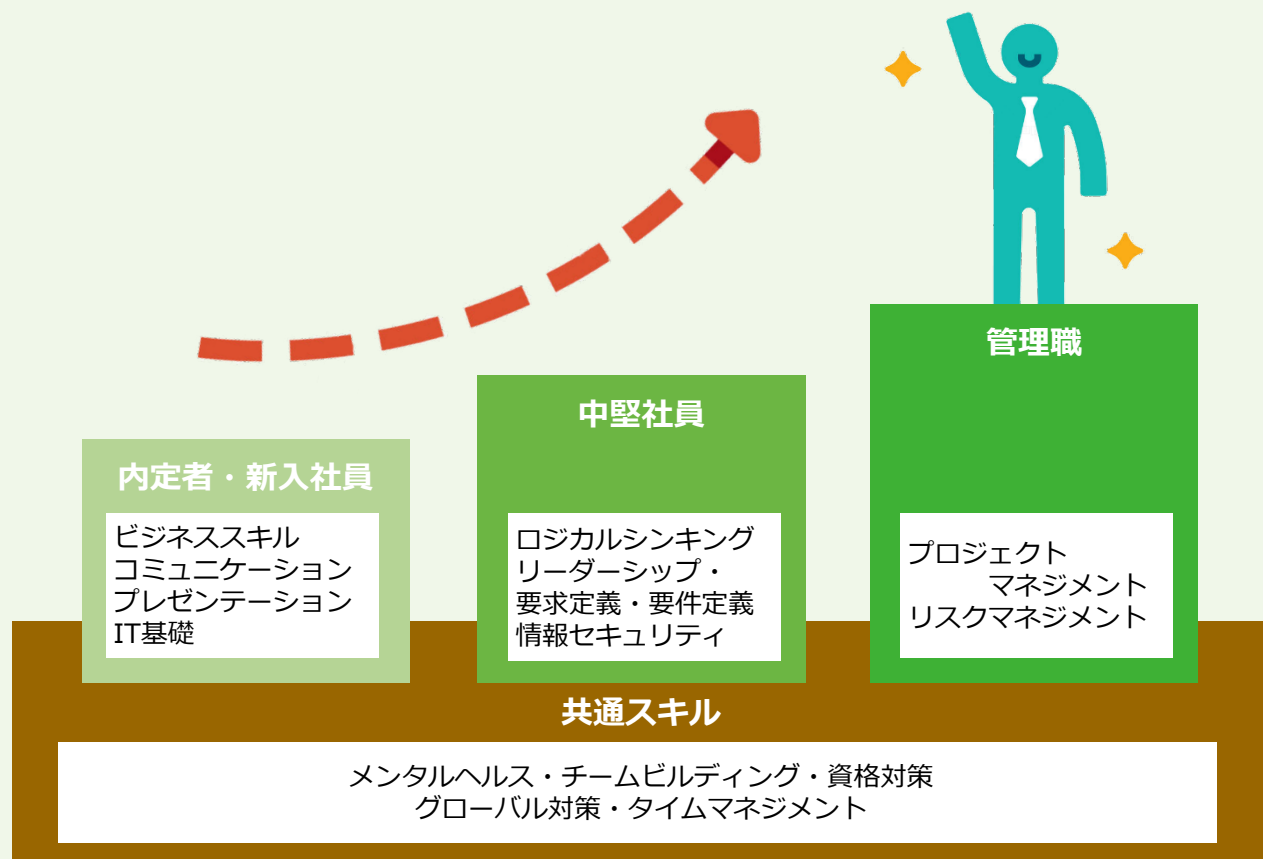
アイテックなら社員教育をワンステップで

アイテックでは、1994年初版以来、17版累計出荷部数20万部を超える『コンピュータシステムの基礎』をはじめ、教科書、問題集など豊富な教材を取りそろえています。

情報処理技術者試験だけではなく、PMP®などグローバルに通用する各種IT資格・試験の対策にも対応しています。内定者にオススメの資格から、入社後必要になる専門的な資格まで幅広い資格対策に対応しているため、初級から上級まですべての社員へワンステップでの教育が可能です。

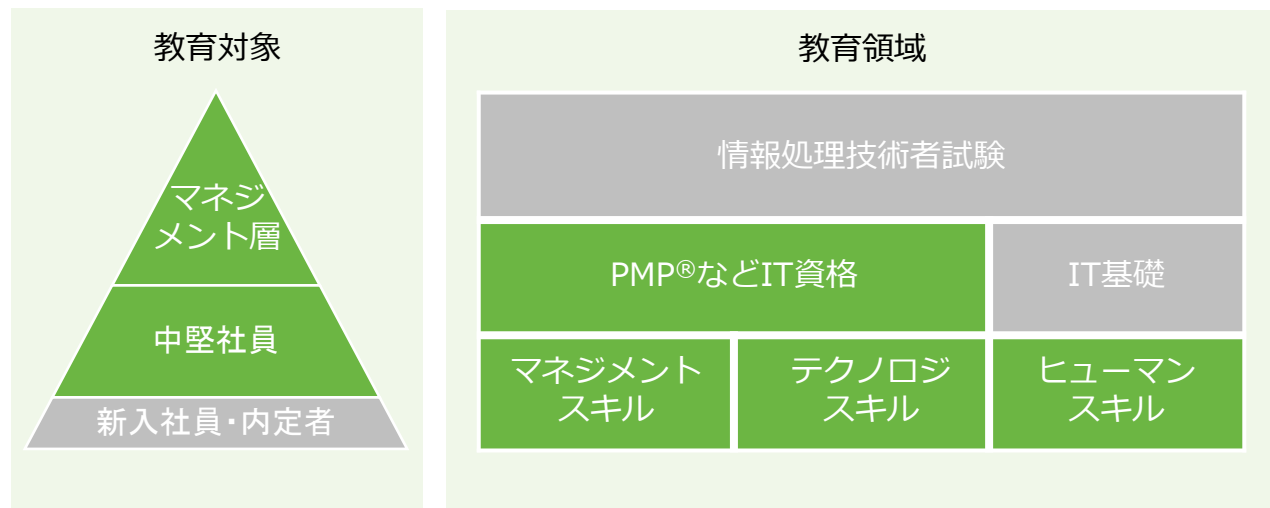


豊富なコンテンツと、幅広い教育分野で、
初級レベルから上級レベルの方まで、
アイテックが社員教育をトータルコーディネーションします！



● 中堅社員とマネジメント層向けの教育

アイテックは、資格取得や技術研修だけでなく、ヒューマン面からもIT人材の育成を支援いたします。本カタログでは、PMBOK®関連分野を中心に、マネジメント層・マネージャ候補向けの教育をご紹介します。



● PDU・CDUの取得ができます

アイテックはPMI®から教育プロバイダであるATP制度の認定を受けており、提供するコースに対しPDUを発行することをPMI®から承認されております。また、ビジネスアナリシス啓発を行うIIBA®のEEP教育プロバイダとして認定を受けており、CDUの発行が可能です。

PMP[®]試験対策
ビジネスアナリシス

● PMP®試験とは

PMP®試験とは、プロジェクトマネジメントに関する知識、理解度ををはかることを目的とした、米国PMI® (Project Management Institute) が認定する資格試験のことです。プロジェクトマネジメントについてのスキルを評価する上で、世界中で事実上の標準となっています。

● PDUとは

PDUとは、承認された学習やプロフェッショナルとしてのサービス・アクティビティを定量化する計測単位です。1PDUは1時間に相当し、1時間を越えれば0.25単位で申請することができます。教育カテゴリーが細分化され、資格取得後のCCRサイクル従事の際、「テクニカル」「リーダーシップ」「ストラテジー」のサブカテゴリーで、各サブカテゴリーで最低8PDU（合計で60PDU以上）を取得する必要があります。

● PMP®資格取得から更新の流れ

PMP®試験は受験するために、まず実務経験と35PDUが必要です。また、試験に合格して資格保有者となった後も、継続的な教育および職務能力の育成のため、CCRサイクルに従事する必要があります。

資格取得の流れ

Step 1	PMP®試験受験資格を満たすこと 大卒以上の方：4500時間以上の実務経験、36ヶ月のPM経験 高卒以上の方：7500時間以上の実務経験、60ヶ月のPM経験
Step 2	35PDU以上のPM研修を受講
Step 3	PMIに申請
Step 4	PMP®試験を受験

資格更新の流れ（3年間のCCRサイクル）

Step 1	3年間に60PDU以上の継続学習
Step 2	60PDU以上のアクティビティの申請・承認
Step 3	更新費用の支払い
Step 4	PMI倫理・職務規定の再確認
Step 5	資格の更新

● アイテックのPMP®試験対策書籍

PMP®試験 合格虎の巻 新試験対応



著：落合和雄、庄司敏浩 A5判 461頁
販売価格(税別)：3,200円

2021年1月より改訂されたPMP®認定試験に対応。新試験問題の半数は、アジャイル型、又はアジャイルとウォーターフォールを組み合わせたハイブリッド型を前提とした問題になります。本書は、全章にわたって、アジャイル型に関する知識・用語を多く掲載しています。さらに実際の試験を想定した「模擬試験」付き。計「430問」が収録、詳細な解答解説も実力アップに役立ちます。

PMBOK®ガイド問題集 第6版対応



著：アイテックIT人材教育研究所
監訳 A6判 324頁
販売価格(税別)：1,700円

原典である英語版をPMI®の許可を得て日本語の書籍として翻訳・出版しています。

プロジェクトマネジメントリテラシ



著：アイテック情報技術教育研究所
吉沢正文・宮沢修二 A5判 216頁
販売価格(税別)：2,700円

プロジェクトメンバーに必要な知識と能力に焦点をあて、どの様なアプローチで理解するかをわかりやすく解説。

● ● ●
 テクニカル
 25PDU

プロジェクトマネージャ養成コース

プロジェクトマネジメントの考え方や、PMBOK®に対応したマネジメントスキルを身に付けるだけでなく、ITプロジェクトの立ち上げから終結までの一連のプロセス群をどのようにマネジメントしていくかPMに必要な法律知識やヒューマンスキルをWeb学習にて身に付けられます。

受講期間	修了条件	価格(税別)
随時開講 6か月	<ul style="list-style-type: none"> すべての学習教材、演習課題を実施していること 章末問題、修了テストの正答率が70%以上であること 	48,000円

受講対象者

- PMBOK®ベースのプロジェクトマネジメント基礎知識を習得している
- ITシステム開発プロジェクトにメンバーとして参画した経験がある方
- PMP®試験受験者でPDU取得が必要な方、PMP®資格取得者でPDU更新が目的の方

コース構成

No	章別	主要学習項目
1	プロジェクトとプロジェクトマネジメント	企業活動とプロジェクト/プロジェクトマネジメントの必要性/プロジェクトマネジメントを取り巻く概念
2	プロジェクトの立上げ	ビジネスアナリシスと要求分析/ステークホルダ特定/プロジェクト憲章の作成
3	プロジェクト計画	プロジェクト計画の全体像/スコープ定義/スケジュール作成/コスト見積りと予算設定/品質計画/人的資源計画/コミュニケーション計画/調達計画/ステークホルダマネジメント計画/リスクマネジメント計画/プロジェクト計画書作成とキックオフ
4	プロジェクト実行	プロジェクトの実行と監視・コントロール/スコープ管理と変更管理/進捗管理/アーンドバリューマネジメント/コスト管理/品質管理/要員管理/コミュニケーション管理/調達管理/ステークホルダ管理/リスク管理/プロジェクトにおけるセキュリティ
5	プロジェクトの終結	プロジェクトの終結
6	プロジェクトマネージャに求められる素養	人間関係のスキル/リーダーシップとコンフリクトマネジメント
7	法律に関する知識	契約関係/知的財産関係
8	修了テスト	25問 (自己採点/添削なし)

受講者の声

「PMBOK®の知識エリアごとに理解できるように整理されていた」

「体系を学ぶ以外に、実際の経験則に基づく知識も習得できる」

「担当業務だけでは経験できないベンダやユーザ企業の視点もカバーされており勉強になった」

「PMP®試験問題を見て、問題の意図が理解できるようになった」

● ストラテジック 10PDU **プロジェクトを基盤とする情報活用戦略マネジメント**

プロジェクトマネージャがプロジェクト分析及び評価結果などの情報をいかに効率的に活用し、戦略の策定・見直しを行っていくかなど、戦略的マネジメントがWeb学習にて身に付けられます。

受講期間	修了条件	価格(税別)
随時開講 6か月	<ul style="list-style-type: none"> すべての学習コンテンツを受講すること すべての章別確認問題を受験し、正答率が70%以上であること すべての演習課題を提出すること 修了テストを受験し、正答率が70%以上であること 	25,000円

コース構成

No	学習項目	学習コンテンツ
1	企業活動の流れと情報活用戦略	教材（動画）／章末確認問題／演習課題
2	組織のストラテジ分析とギャップ分析	教材（動画）／章末確認問題／演習課題
3	戦略を実現するためのプログラム計画とプロジェクトの立ち上げ	教材（動画）／章末確認問題／演習課題
4	費用対効果分析	教材（動画）／章末確認問題／演習課題
5	環境の変化に即応するためのチェンジマネジメント	教材（動画）／章末確認問題／演習課題
6	ソリューションの評価と継続的改善	教材（動画）／章末確認問題／演習課題
7	修了テスト	

受講者の声

- 「各章のテーマや目的が明確だった」
- 「情報戦略マネジメントのポイントが習得できた」
- 「ビジネス上でも想定できる学習内容だった」
- 「レポート作成の課題が今後の業務に役立つと感じた」
- 「上流工程から学習することができたので、有用だった」

リーダーシップ プロジェクトマネージャに求められるリーダーシップ

リーダーシップ
10PDU

あるべきリーダー像の明確化・チームビルディング・コミュニケーションスキル・ネゴシエーションスキルなど、プロジェクト推進に必要なリーダーシップを発揮するためのスキル、プロセスをWeb学習にて身に付けられます。

受講期間	修了条件	価格(税別)
随時開講 6か月	<ul style="list-style-type: none"> すべての学習コンテンツを受講すること すべての章別確認問題を受験し、正答率が70%以上であること すべての演習課題を提出すること 修了テストを受験し、正答率が70%以上であること 	25,000円

コース構成

No	学習項目	学習コンテンツ
1	プロジェクトを成功に導くリーダーシップ	教材（動画）／章末確認問題／演習課題
2	チーム活性化のためのチームビルディング	教材（動画）／章末確認問題／演習課題
3	メンバーとの信頼関係構築のためのコミュニケーション	教材（動画）／章末確認問題／演習課題
4	合意形成のためのネゴシエーション（交渉）	教材（動画）／章末確認問題／演習課題
5	修了テスト	

受講者の声

- 「わかっているつもりでも体系的に理解できていないリーダーシップについてよく整理されていた」
- 「リーダーに求められるものが理解できた」
- 「リーダーシップに必要なポイントが明確になった」
- 「業務に活かせると感じた」

● ビジネスアナリシスとは

ユーザーや経営者の戦略やビジネスの目的から、本当に求められているソリューションを定義し、プロジェクトを成功に導くための知識体系がビジネスアナリシスです。要求分析の成功事例から、知識エリアと構成するタスクを体系化しています。

ビジネスアナリシスの役割

- ・ユーザーのビジネス目標を明確にする
- ・ユーザーの真のニーズを引き出す
- ・要求と要件を定義し開発側に伝える
- ・プロジェクトの妥当性を確認する

● BABOK® v3とは

BABOK® はBusiness Analysis Body of Knowledgeの頭文字をとったもので、ビジネスアナリシスのプラクティスをまとめたものです。ビジネスアナリシスの領域で複数ある知識体系の中でも最も有用性を評価されているため、世界標準となっています。最新版はバージョン3であるv3となります。

● IIBA® 認定資格について

米国の非営利団体IIBA®が認定する資格は、BABOK®に準拠した資格試験であり、レベルによって資格が異なります。2018年6月14日より、CBAP®資格試験の日本語試験が再開しました。アイテックでは、CBAP®試験対策のセミナーや事前学習時間の申請について支援することができますので、お気軽にご相談下さい。

レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
資格名	ECBA™	CCBA®	CBAP®	CBATL™
目的	BA職の初心者として認定	BA職2～3年間の経験者として認定	ベテラン（5年）のBA経験者として認定	BA分野のエキスパートとして認定
認定方法	<ul style="list-style-type: none"> ・業務経験不要 ・認定試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・3500時間以上のBA業務経験 ・認定試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・3500時間以上のBA業務経験 ・認定試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・15000時間以上のBA業務経験 ・アセスメント(未定)
認定試験言語	英語のみ	英語のみ	英語と日本語	-

出典：CBAP Online 受験説明会 IIBA日本支部

● アイテックのBABOK®書籍

ビジネスアナリシス知識体系ガイド Version3.0



原書：A Guide to the Business Analysis Body of Knowledge(BABOK® Guide) Version 3.0

翻訳：IIBA®日本支部 BABOKR v3翻訳プロジェクト
(監修:清水 千博 翻訳:溝口 真理子、依田 光江、渡部 洋子)

販売価格(税別)：書籍版 9,000円 / PDF版 6,500円

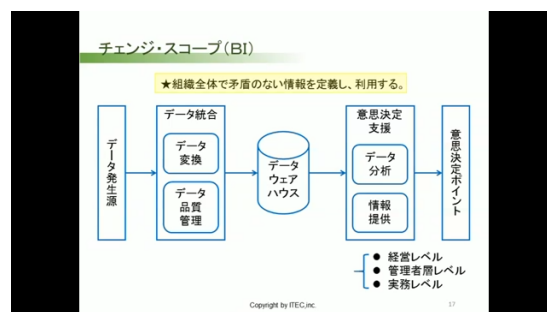
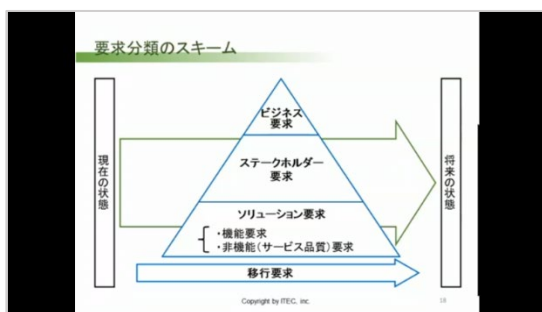
ビジネスアナリシスの知識体系を網羅したBABOK® Guideの公式和訳版です。本書はIIBA®日本支部の委託を受けて株式会社アイテックが販売しております。

● **テクニカル**
● **12PDU/12CDU** **BA概説講座 (BABOK® Ver.3対応)**

ビジネスアナリシスとは、適切な要件定義を行い、ITプロジェクトを成功に導くための手法です。
本コースは、BABOK® Ver.3に基づき、ビジネスアナリシスの知識体系をWebで学習できるコースです。

受講期間	修了条件	価格(税別)
随時開講 6か月 (標準12時間)	<ul style="list-style-type: none"> すべてのChapterを受講していること 全ての確認テストを受験し、正答率が70%以上であること 実例演習課題を全て提出していること 	30,000円

※EEP教育プロバイダとして認定を受けており、CDU取得可能コースとして認められています。
 ※CDUはPDUと平行して取得することが可能です。
 ※CDUの発行が必要な場合は、あらかじめ担当営業またはアイテックサービスデスクへご相談ください。



コース構成

No	学習項目	学習コンテンツ
1	ビジネスアナリシスとBABOK®	教材 (動画) / 実例演習問題
2	ビジネスアナリシスの計画とモニタリング	教材 (動画) / 確認テスト
3	引き出しとコラボレーション	教材 (動画) / 確認テスト / 実例演習問題
4	要求のライフサイクル・マネジメント	教材 (動画) / 確認テスト
5	戦略アナリシス	教材 (動画) / 確認テスト / 実例演習問題
6	要求アナリシスとデザイン定義	教材 (動画) / 確認テスト / 実例演習問題
7	ソリューション評価	教材 (動画) / 確認テスト
8	基礎コンピテンシ	教材 (動画) / 確認テスト
9	専門視点	教材 (動画) / 確認テスト

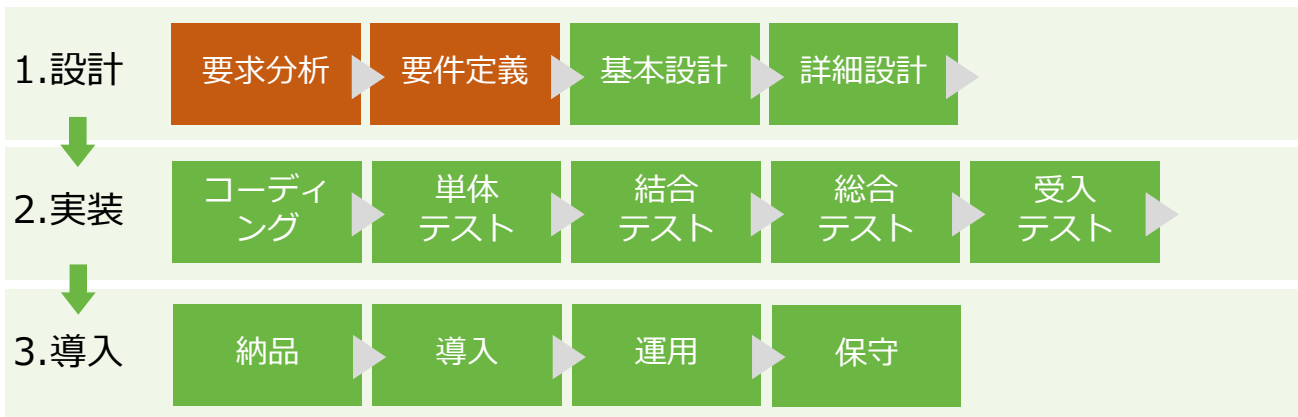




システム開発
上流工程

要求分析・要件定義とは

ウォーターフォールモデルでのシステム開発工程



● 要求分析とは

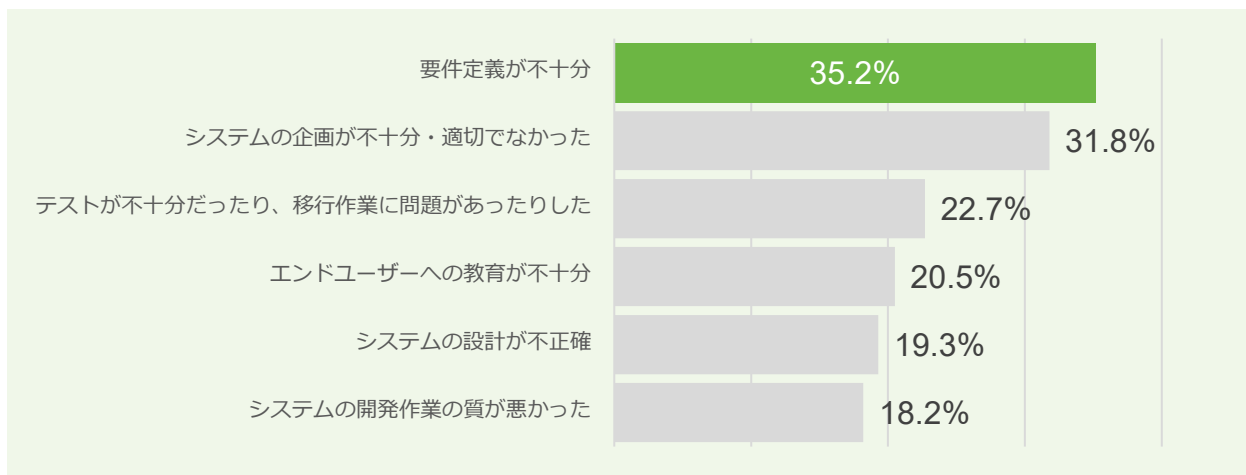
要求分析は、システム開発の工程で一番最初に行う、ユーザーから要求を引き出し定義することです。ユーザー自身が自らの要求を正しく把握できていなかったり、開発技術知識の不足により、曖昧になりがちな要求を明確化することが重要です。要求分析を行うことにより、ユーザーと開発者の両方にとって必要となる要件定義を進めていくことができます。

● 要件定義とは

要件定義とは、要求分析で明らかになった目的を実現するために、システムに求められる要件を定義することです。例えば、機能の目的、品質管理の指標、運用の範囲、ハードウェア・ソフトウェアの性能など、システム全般にわたる要件を明確化します。システムに関わる全ての部分のゴール設計を行う作業です。

● 全体の5割が失敗するITプロジェクト。原因トップは「要件定義が不十分」

日経コンピュータの調査によると、「スケジュール」「コスト」「満足度」の3条件を満たす成功したITプロジェクトは、全体の1745件のうち、約半数（52.8%）でした。満足度に関する失敗プロジェクトへ原因を尋ねたところ、最も多かったのは「要件定義が不十分」（35.2%）。スケジュールの遅延・コスト超過・完成したシステムへの満足度が低くなる原因は、上流工程の不十分さに起因していることが明らかです。



出典：日経コンピュータ ITプロジェクト実態調査2018

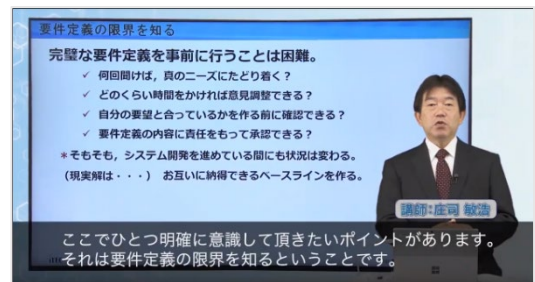
● **テクニカル** 7.5PDU **リーダーシップ** 2.5PDU **要件定義と要求分析**

「要件は変わるものである」という前提に基づいた上で、プロジェクトを成功に導くために、顧客の真の要求・要件を引き出し、開発に必要なものを見極めるポイントを動画にて解説します。テクニックや技法だけではなく、コミュニケーション方法についても学ぶことができます。

受講期間	修了条件	価格(税別)
随時開講 6か月	<ul style="list-style-type: none"> すべての学習教材を受講していること すべての章末テストを受験し、正答率70%以上であること 演習課題をすべて提出していること 受講期間内であること アンケートに回答していること 	25,000円

受講対象者

- 成功するプロジェクトの要件定義が知りたい方
- たび重なる要件の変更に悩まされている方
- 顧客の真のニーズを引き出し、プロジェクトの満足度を高めたい方



コース構成

	章別	学習項目
第1章	要件定義の位置付け	要件定義がなぜ重要か① / 要件定義がなぜ重要か② / 要件定義で何をするのか① / 要件定義で何をするのか② / 章末テスト 5問
第2章	要件定義の流れとポイント	要件定義の基本的な流れ① / 要件定義の基本的な流れ② / 要件定義で重視すべきこと① / 要件定義で重視すべきこと② / 章末テスト 5問
第3章	要求の引出しと要求開発	要求の引出しと要求開発のポイント① / 要求の引出しと要求開発のポイント② / 要求を引出したり作り上げるための手法① / 要求を引出したり作り上げるための手法② / 演習課題 要求の引出し計画 (Word形式・オンライン提出) / 演習課題 要求の引出し計画 解説 / 章末テスト 10問
第4章	要求の引出しに必要なコンピテンシー	コミュニケーション① / コミュニケーション② / その他のコンピテンシー① / その他のコンピテンシー② / 演習課題 システム思考 (Word形式・オンライン提出) / 演習課題 システム思考 解説 / 章末テスト 5問
第5章	要求分析	要求の検証① / 要求の検証② / 要求の妥当性確認 / 要求の優先順位付け / 演習課題 要求の妥当性確認 (Word形式・オンライン提出) / 演習課題 要求の妥当性確認 解説 / 章末テスト 10問
第6章	要件定義書のまとめ方と合意形成	要求定義書へのまとめ方① / 要求定義書へのまとめ方② / 要件定義書のレビュー、合意と承認 / 章末テスト 5問
第7章	要求管理	要求管理① / 要求管理② / 章末テスト 5問
-	アンケート	-

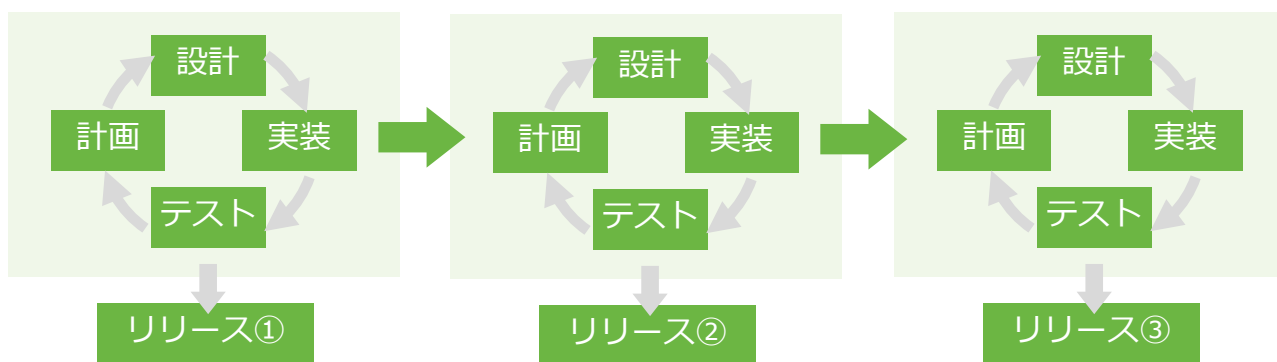
アジャイル開発とは

変化の激しいビジネスニーズに対応する為に、開発～リリース～改善のサイクルを短期間で繰り返します。計画よりも変化への適応を重視し、顧客とのコミュニケーションをとりながら短いスパンで開発を行う為、従来型の開発手法よりも、顧客の要求に柔軟に対応しながら速いスピードで提供することができます。

アジャイルソフトウェア開発宣言 4つの価値

1. プロセス・ツールよりも、個人の対話を重視
2. 包括的なドキュメントよりも、動くソフトウェアを重視
3. 契約交渉よりも、顧客との協調を重視
4. 計画に従うことよりも、変化への対応を重視

アジャイルモデルでのシステム開発工程



DX時代に求められる開発手法とは

プロジェクトマネジメントの世界的な標準資格であるPMP®試験では、2021年の試験改訂時にアジャイル型・ハイブリッド型のアプローチ手法を、試験に大幅追加すると発表しています（2020年3月現在）。これからDXが進み、前例のないビジネスを成功させるために、今後のシステム開発では、プロジェクトごとに、最適な開発手法を選ぶスキルが必要になるでしょう。

アジャイルソフトウェア開発入門

1.5日間の本研修で、実践を通しながらアジャイル開発に必須となるスクラムやストーリーの概念を身に付けることができます。アジャイル開発を実際に行う方に役立つ基礎知識をはじめ、プロジェクトの進め方に重点をおいた解説を行いながら、講座内で実際に実技を演習します。

受講対象

- アジャイル開発手法の基礎知識を習得したい技術者やマネージャの方

講座の目的

- アジャイルの考え方について学ぶ
- スクラム 概要を理解する
- XP原則のプラクティスを理解する
- アジャイル検定試験に要求される基本知識を得る

カリキュラム

1日目	アジャイル総論 1.アジャイルとは 2.アジャイルの背景 3.アジャイルの登場
	スクラムとストーリー 1.スクラム概要 2.ストーリーとは
	XP概要 1.XPとは 2.XPのプラクティス
	チーム演習
2日目	アジャイル検定対策問題演習 エクストリームアワーによる 疑似アジャイルプロジェクト体験

担当講師



長瀬 嘉秀

1986年、東京理科大学理学部応用数学科卒業。朝日新聞社を経て、1989年、株式会社テクノロジックアートを設立。OSFのテクニカルコンサルタントとしてDCE関連のオープンシステムの推進を行う。OSF日本ベンダ協議会DCE技術検討委員会の主査を務める。

現在、株式会社テクノロジックアート代表取締役。UML Profile for EDOCの共同提案者、ISO/IEC JTC1 SC32/WG2委員、UMLモデリング推進協議会(UMTP)監事、電子商取引推進協議会(ECOM)XML/EDI標準化調査委員。明星大学情報学部講師。中国浙江大学客員教授。著書として、『アジャイルプロジェクト管理』（共著、技術評論社）、その他多数。

開催概要

開催日	お問い合わせください
時間	1日目 10時～17時 2日目 10時～13時
場所	DAYS赤坂見附
受講費用（税別）	80,000円（税別）/1名 （書籍＋バウチャー付き）
定員	25名

※本セミナーではPDU/CDU取得はできません。
※アイテックストアに公開していない商品となります。
お気軽に担当営業までご相談ください。

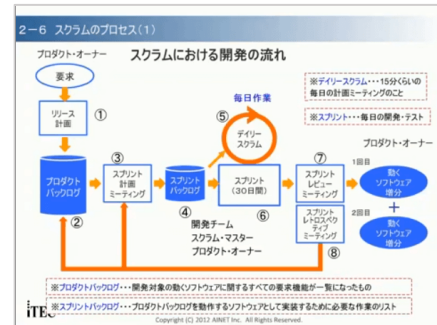
● ● ● **テクニカル 5PDU** **アジャイル開発の基礎 WEB 学習コース**

本講座では、『アジャイル開発』における基礎的な要素をWebで学習できます。音声とスライドによる解説とWeb上の各章末問題で構成された学習コースです。アジャイルシステム開発の概要と基礎となる知識が習得できます。若手SE向けの入門・開発演習の研修前の自己学習に最適です。

受講期間	修了条件	価格(税別)
随時開講 3か月	各テスト80%以上の正答率であること すべての学習教材を受講していること	18,000円

受講目的

- アジャイル 考え方について学ぶ
- スクラム 概要を理解する
- XP原則・プラクティスを理解する
- アジャイル検定試験に要求される基本知識を身に付ける



コース構成

	章別	学習項目
第1章	アジャイル概要	ソフトウェア開発/ソフトウェア開発における課題/アジャイル開発とは/アジャイル開発の歴史/アジャイルマニフェスト/アジャイルマニフェスト12の原則/アジャイル開発の特徴/アジャイル適用の効果/章末テスト 10問
第2章	アジャイルのプロセス	スクラムの原点/スクラムの精神/スクラム実践の基本/スクラムの場/スクラムチーム/スクラムのプロセス/章末テスト 10問
第3章	エンタープライズアジャイル	エンタープライズアジャイル/PMBOK®とアジャイル/ハイブリッド開発/事例/チームとコラボレーション/アジャイルを成功に導くスキル/章末テスト 10問
第4章	アジャイルとリーダーシップ	アジャイルを成功に導くリーダーシップ/アジャイルのリーダーシップスタイル/サーバントリーダーシップとは/サーバントリーダーシップ5つの柱/サーバントリーダーシップの特性/アジャイル開発におけるリーダーシップのあり方/章末テスト 10問
-	総まとめテスト 10問	-

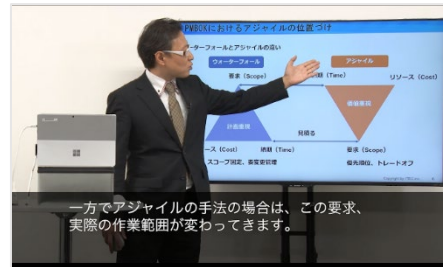
● **テクニカル 9PDU** **リーダーシップ 1PDU** **アジャイルプロジェクトマネジメント**

アジャイルプロジェクトを順調に回していくためにプロジェクトマネージャが押さえておくべき知識を、講義動画と章末テストで学ぶことのできるコースです。アジャイルのポイントをプロジェクトマネジメント視点から解説します。

受講期間	修了条件	価格(税別)
随時開講 6か月	<ul style="list-style-type: none"> すべての学習教材を受講していること すべての章末テストを受験し、正答率70%以上であること 受講期間内であること アンケートに回答していること 	25,000円

受講目的

- アジャイルプロジェクトを機敏に回していくためのポイントをプロジェクトマネージャの視点で習得する。



コース構成

章別	学習項目
第1章 PMBOK®ガイドにおけるアジャイルの位置づけ	PMBOK®ガイドにおけるアジャイルの位置づけ/章末テスト 5問
第2章 アジャイルにおける要求、要件定義	アジャイルにおける要求とは? / ビジネスケース作成 / ビジネスケース作成手順 / アジャイル手法を始めるポイント / 章末テスト 10問
第3章 アジャイルにおける見積もりと契約	見積りのアプローチ / 日本におけるプロジェクト契約の現状 / 請負契約と準委任契約と派遣契約 / 契約のポイント / 異文化圏との契約 / アジャイルでの契約 / 章末テスト 10問
第4章 アジャイルにおける計画	ユーザーストーリー作成 / ユーザーストーリーの承認・見積・コミット / タスク作成 / タスク見積 / スプリント・バックログ作成 / 章末テスト 10問
第5章 アジャイルにおける進捗管理	実行 / 成果物作成 / 日々のスタンドアップ・ミーティング / レビューと振り返り / リリース / 章末テスト 10問
第6章 アジャイルにおける品質管理	完成した成果物の能力 / 品質とスコープ / 品質とビジネス価値 / 受入基準と優先順位付きプロダクト・バックログ / 品質管理のプロセス / PDCAサイクル / 章末テスト 10問
第7章 サーバントリーダーシップ	サーバントリーダーシップ / 章末テスト 10問
第8章 アジャイルにおける課題	最終成果物の範囲・合意形成 / 予算・見積の精度 / 契約事項とスケジュール / 章末テスト 10問
第9章 アジャイルにおける開発事例 - ケーススタディ -	プロジェクト立ち上げ (要件定義・見積・契約) / プロジェクト計画 (ストーリー・タスク・アサイン) / プロジェクト実行 (進捗管理) / 品質管理・受入れ / リーダーシップ
- アンケート	-

セキユリティ 資格対策

● ● PCI DSSとは

PCI DSSとは、国際カードブランド5社（American Express, Discover, JCB, MasterCard, VISA）が定めた、カードデータのためのセキュリティ基準です。今までセキュリティ基準は、各カードブランド会社がそれぞれ独自に制定していました。そこで加盟店側の負担を考慮し、各カードブランドが連携した共通のセキュリティ基準が制定されました。

2020年3月末までに、PCI DSSの準拠または情報の非保持化対応が求められています！

米国では法制化されており、日本でも安全なカードデータの取り扱いを目的に普及を推進しています。一般社団法人日本クレジット協会は下記のとおり各業界にPCI DSSの準拠、またはカード情報の非保持化対応を要請しています。

● ● PCI DSS認定のメリット

PCI DSS準拠により、企業価値（信用、ブランド）の向上はもちろんのこと、サイトの改ざんや悪用、情報盗用などのリスクを低減します。個人情報保護制度より、具体的にセキュリティポリシーを定義される為、ハッカー等による様々な不正アクセスからお客様のサイトを保護します。

また、PCI DSSを推進する国際カードブランドのいくつかは、加盟店からカードに関する情報が流出して不正使用された場合、PCI DSSに準拠していれば損害を免責することがあります。

● ● PCI DSSの認定方法

PCI DSSの具体的な対応方法は、カード情報の取扱い形態や規模によって、訪問審査、サイトスキャン、自己問診の3つの方法があり、カード情報の取扱い規模や事業形態によって、複数を実施する必要があります。いずれの方法でも、規定された12の「要件」に準拠していることと適切な運営が求められます。

● PCI DSS3.2.1 教育トレーニング

幅広い業界で多くのPCI DSS監査実績を持つICMS社監査員（QSA）の監修による学習コースです。PCI DSS要件の目的を把握し、確実な準拠と適切な運営へのガイドとなる実用的な教材をWebで学習します。

国内初・業界初
学習コース

出題問題数
100問以上

受講期間
随時開講 6か月

価格(税別)
92,000円

受講目的

- PCI DSSの概念と要件を理解して、ビジネスに最適な準拠の仕方、運営を行えるようにする。
- PCI DSS要件の概略を学び、QSA同等の知識習得を目指す。

受講対象者

- PCI DSS準拠検討・準備中、準拠中の方
- コンサルの方
- ITご担当者の方



<監修> 国際マネジメントシステム認証機構 (ICMS)
代表取締役社長、PCI DSS QSA監査員
上野 洋一

コース構成

Lesson	学習項目	学習時間目安
Lesson1	概論	120分
Lesson2	PCI DSS準拠の為の事前準備	90分
Lesson3~7	要件とテスト手順 (1~2)	150分
Lesson8~11	要件とテスト手順 (3~4)	120分
Lesson12~17	要件とテスト手順 (5~6)	180分
Lesson18~25	要件とテスト手順 (7~9)	240分
Lesson26~32	要件とテスト手順 (10~11)	180分
Lesson33~36	要件とテスト手順 (12及びまとめ)	120分
Lesson37~39	代替コントロールとAppendix A2	90分
Lesson40	総合テスト (全25問)	60分

● ● ● セキュリティエンジニア養成講座とは

セキュリティエンジニアの業界で著名な資格として知られる「CND」「CEH」をはじめとする、EC-Councilの認定取得を目指すための講座です。サイバーセキュリティに特化した専門会社GSXが提供します。CND・CEHの講座は日本人講師、日本語テキストです。認定資格試験についても日本語です。

● ● ● 講座の特長

現役プロハッカーによる講師陣

講師は全員、サイバーセキュリティに特化した実績ある現役プロハッカーを人選。資格保有、複数大学での講師経験者等、経験豊富なハッカーが講師を担当します。

仮想環境 iLabs

セキュリティの学習環境は気を付けないと、攻撃者に利用されてしまうことがあります。最先端の仮想環境iLabsは攻撃される心配がなく、利用することができます。

実践演習でスキル習得





各種ツールを利用して、実際に設定や対策の効果を実践演習。受講後も仮想環境へは6か月間のアクセスが可能。スキル習得のための演習を会社・自宅で行うことができます（英語コンテンツ）

認定試験の合格率

コース修了条件を満たし、受講開始後1年以内に認定試験を受験すると、70%以上の正答率でEC-Councilの認定資格（CND,CEH）を得ることができます。

● ● ● EC-Councilの認定資格とは

EC-Councilは、情報セキュリティの個人スキルを認定する組織です。EC-Councilの認定資格は、米国連邦政府、連邦警察（FBI）を含む、様々な米国政府機関からの推薦を受けています。対象の講座でトレーニングを受けた後、認定試験に合格することで、セキュリティ技術者の資格を認定されます。

レベル	中級者	上級者	スペシャリスト向け	
資格名	 認定ネットワークディフェンダー	 認定ホワイトハッカー	 認定フォレンジック調査員	 認定アプリケーションセキュリティエンジニア
認定方法	CND講座を受講後、認定試験に合格	CEH講座を受講後、認定試験に合格	CHFI講座を受講後、認定試験に合格	CASE講座を受講後、認定試験に合格
認定試験言語	日本語	日本語	英語	英語
特徴	セキュリティに関する防御・検出・対応を行うことで、潜在的なリスクを排除できる技術者であることを認定	攻撃者が用いる攻撃手法やツール、標的にされやすい脆弱性に精通した、高度なセキュリティ技術者であることを認定	攻撃の痕跡や侵入者の足跡を見つけ出し、必要な証拠を正しく集めるスキルを持つ技術者であることを認定	安全で改修しやすいプログラムを設計し、コーディングする技術を持つソフトウェア開発者であることを認定

● CND（認定ネットワークディフェンダー）

本講座は、「予測可能な防御スキル」「事後対応の方法」「インシデントに対する適応的対応」の3つの観点からのアプローチで、ネットワークセキュリティ技術者に求められるスキルの習得を支援いたします。

カリキュラム

- ・コンピュータネットワークと防衛の基礎
- ・ネットワークセキュリティの脅威、脆弱性、攻撃
- ・ネットワークセキュリティのコントロール、プロトコル、デバイス
- ・ネットワークセキュリティポリシーのデザインと実装
- ・物理セキュリティ
- ・ホストセキュリティ
- ・ファイアウォールの安全な構成と管理
- ・IDSの安全な構成と管理
- ・VPNの安全な構成と管理
- ・無線ネットワークの防御
- ・ネットワークトラフィックのモニタリングと分析
- ・ネットワークリスクと脆弱性の管理
- ・データのバックアップとリカバリ
- ・ネットワークインシデント対応と管理

開催概要

受講期間	5日間（月～金曜日）または3日間（水～金曜日）の10：00～18：00
コース内容	・3～5日間の座学およびテキスト ・演習環境iLabsのID（6か月間有効） ・認定資格試験バウチャ（受講開始後1年以内に要受験）
CND講座受講要件	・ネットワークの概念について基礎的な知識を有していること（ネットワークエンジニアとして2～3年程度の経験） ・Cisco CCDAまたはCCN・CompTIA Network+またはSecurity+・IPA ネットワークスペシャリストの資格保有者または同等のスキル保有者
受講費用（税別）	398,000円

● CEH（認定ホワイトハッカー）

最新のセキュリティ脅威、高度な攻撃手法と最新のハッキングの技術を学習。「現実の攻撃手法」を体系的に学ぶことで、ホワイトハッカーとして「攻撃者視点」の判断力を習得し、効果的な防御に活用できます。

カリキュラム

- ・ホワイトハッキングの紹介
- ・フットプリンティングと調査
- ・ネットワークの診断
- ・列挙
- ・システムハッキング
- ・マルウェアの脅威
- ・スニффイング
- ・ソーシャル・エンジニアリング
- ・サービス拒否（DoS）
- ・セッションハイジャック
- ・Webサーバのハッキング
- ・Webアプリケーションのハッキング
- ・SQLインジェクション
- ・ワイヤレスネットワークのハッキング
- ・モバイルプラットフォームのハッキング
- ・IDS、ファイアウォールレポートの回避
- ・クラウド・コンピューティング
- ・暗号技術

開催概要

受講期間	5日間（月～金曜日）10：00～18：00
コース内容	・5日間の座学およびテキスト ・演習環境iLabsのID（6か月間有効） ・認定資格試験バウチャ（受講開始後1年以内に要受験）
CEH講座受講要件	下記が理解できれば問題ありません（予習推奨） 1) CCNAレベルのネットワークの知識 2) LPIC Level1程度のLinuxの知識 3) 企業で導入されているFirewallなどネットワーク・セキュリティ機器の構成 4) 下記ツールの使い方 Wiresharkやtcpdump、nmap、ローカルプロキシ（Burp Suite、Fiddler、Owasp Zed Attack Proxy）
受講費用（税別）	498,000円

※アイテックストアに公開していない商品となります。お気軽に担当営業までご相談ください。

WEBからのお申込み

<https://www.itec.co.jp/store/>

または、下記「お問合せ」内、法人営業部までお申し付けください



法人向けサイトからのお申込み

<https://www.itec.co.jp/inquiry/>



- ・アイテックのご提供商品が簡単、迅速にご購入いただけます
- ・見積書の出力や見積書からのご購入が可能です
- ・過去の購入履歴がご参照いただけます
- ・一度請求、納入先などをご登録いただけますと、繰返しご利用いただけます
- ・受講者情報を一括登録できるCSVアップロード機能が搭載されております
- ・お申込毎に必要な、社印の押印が不要です
- ・弊社導入法人様限定のECサイトです (予めご登録が必要です)
- ・3,000円以上 (税込) ご購入の場合、送料無料
- ・ご利用をご検討されるお客様はお問合せください

お問い合わせ

サービスデスク お問い合わせフォーム

<https://www.itec.co.jp/contact/>



法人営業部

E-mail : hojin@itec.co.jp

TEL : 03-6878-8450

受付時間 : 月～金(祝祭日除く) 10:00～17:00

情報管理体制



登録番号 : ICMS-SR0052
登録組織名 : 株式会社アイテック
審査適用規格 : JIS Q 27001:2014(ISO/IEC 27001:2013)
認証範囲 : 教育事業本部・教育事業本部
初回登録日 : 2006年7月5日

公式SNS



twitter

どこよりも早くアイテックの新商品や情報処理の最新情報をお届け
https://twitter.com/ITEC_shikaku



facebook

一人一人のキャリアビジョンを実現させるために一緒に考え、
悩み、共に成長していける、そんなコミュニティを目指します
https://twitter.com/ITEC_shikaku



アイテック通信

情報処理技術者試験やPMP®試験の情報を受講者様向けに発信
<https://www.itec.co.jp/webform/mailmagazine>

会社概要

商号	株式会社アイテック	
資本金	80,000,000円	
グループ	株式会社フォーバルグループ	
取締役	代表取締役社長	加納 敏行
	取締役副社長 教育事業本部長	土元 克則
	取締役 人材事業本部長	澤田 朗
	取締役 管理本部長	久保田 善之
	取締役(非常勤)	加藤 康二
	取締役(非常勤)	行 辰哉
事業概要	通信教育事業、書籍の出版・販売事業、企業向け社員研修事業	



所在地	□本社・人材事業本部 〒105-0003 東京都港区西新橋1-18-6 クロスオフィス内幸町6階
	□教育事業本部 (TRCスタジオ) 〒143-0006 東京都大田区平和島6-1-1 センタービル8階
	□フォーバルグループ共用オフィス (目黒) 〒153-0064 東京都目黒区下目黒1-8-1 アルコタワー12階

沿革	1983年 5月	「株式会社情報処理技術者教育センター」を設立し、教育ビジネスを開始
	1991年 1月	「株式会社アイテック」へ商号変更
	2005年 6月	「株式会社クリエイティブソリューションズ」を設立し、人材ビジネスを開始
	2018年 4月	「株式会社クリエイティブソリューションズ」と「株式会社アイテック」が合併し、株式会社アイテックとなる

主要取引先 (敬称略 50音順)	株式会社DTS IIBA日本支部 JBCC株式会社 株式会社JR東日本情報システム KDDI株式会社 MS&ADシステムズ株式会社 NECソリューションイノベータ株式会社 NECネットエスアイ株式会社 NECマネジメントパートナー株式会社 株式会社NHKメディアテクノロジー NSSLCサービス株式会社 NTTコムウェア株式会社 株式会社NTTデータ 株式会社NTTデータユニバーシティ 株式会社NTTドコモ NTTラーニングシステムズ株式会社 株式会社OKIソフトウェア SCSK株式会社 Sky株式会社 TCSホールディングス株式会社 TIS株式会社 TISソリューションリンク株式会社 アイコムシステック株式会社 株式会社アイネス アマゾンジャパン合同会社 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 株式会社インフォメーション・ディベロプメント 一般社団法人神奈川県情報サービス産業協会 京セラコミュニケーションシステムズ株式会社 コムシス株式会社 株式会社シーエーシー ソフトバンク株式会社 テクノプロ・ホールディングス株式会社 株式会社デンソー 株式会社電通国際情報サービス	東京海上日動システムズ株式会社 株式会社東京スター銀行 東芝インフォメーションシステムズ株式会社 東芝テックソリューションサービス株式会社 株式会社トーハン 株式会社トヨタシステムズ トランスコスモス株式会社 株式会社西村書店 日興システムソリューションズ株式会社 日鉄ソリューションズ株式会社 日鉄テックスエンジニアリング株式会社 日本アイ・ピー・エム株式会社 日本出版販売株式会社 日本情報通信株式会社 株式会社日本政策金融公庫 株式会社日本総合研究所 日本電気通信システム株式会社 株式会社日本マンパワー 野村ホールディングス株式会社 東日本電信電話株式会社 株式会社日立アカデミー 株式会社日立産業制御ソリューションズ 株式会社日立ハイシステム21 株式会社フォーカスシステムズ 株式会社フォーバル 富士ソフト株式会社 株式会社富士通ラーニングメディア みずほ情報総研株式会社 一般社団法人宮城県情報サービス産業協会 株式会社村田製作所 株式会社メイテツコム 楽天ブックスネットワーク株式会社 株式会社ラック 株式会社リクルートテクノロジーズ 株式会社リコー
------------------------	--	---




iTEC
人間力を、企業力に